

平成 30 年度 出前懇談会 会議録			
地 区	五和 地 区	市長・副市長の出席	市長・副市長
日 時	平成 30 年 7 月 17 日 (火) 19:00～20:30	場 所	五和振興センター
地 区 参加者	森山石井町三丁目自治会長（地区理事）、 川崎石井町一丁目自治会長、坂本石井町二丁目自治会長、 待野高井町自治会長、宮崎内河町自治会長、佐藤小山町自治会長、 末武 緑町一丁目自治会長		計 31 名
担 当 グ ル ー プ	リーダー	山中 企画振興部長	副リーダー 新原 防災・危機管理課長
	プレゼン ター	原田 淡窓図書館長	連絡調整担当 佐々木 五和振興センター 長
	書 記	安養寺 東有田振興センター長、吉松 廃棄物処理施設建設推進室長	
	構成員	竹尾 人権・同和対策課長、橋本 農業振興課長	
	その他		
議 題	テ ー マ		説 明 者
	1. 「防災・減災の取組」～それぞれの取組～		原田淡窓図書館長
	2. 「土砂災害警戒区域」とは、		原田淡窓図書館長

1. 「防災・減災の取組」～それぞれの取組～
2. 「土砂災害警戒区域」とは、

(質問)

- ・避難するにあたり住民が行動をとりやすいように、避難指示は「1」、避難勧告は「2」など、数値化して避難行動を徹底したらどうか。

(回答)

- ・地域によって判断基準が異なり難しい。現場での判断が必要となる場合がある。

(質問)

- ・夜中に避難指示等出さず、明るい時間など早めの判断指示が必要ではないか。

(回答)

- ・避難情報は過去の経験から早めの対応に心がけている。

(質問)

- ・ 自主避難所である町内公民館には行政からの支援がない。市職員に話をしても指定避難所と自主避難所では対応が異なる。職員対応に不満があるので徹底してほしい。

(回答)

- ・ 指定避難所と自主避難所の違いを説明。
- ・ 徹底した丁寧な対応をとるよう、職員に話す。

(質問)

- ・ すべての避難所にAEDの設置が必要ではないか。

(回答)

- ・ 検討する。

(質問)

- ・ 五和振興センターには段ボールベッドが現在1個しかない。3、4個増やしてほしい。

(回答)

- ・ 検討する。

(質問)

- ・ 今回、筑後川の水量が多く、内河川の水がはけなく、国道が浸水した。筑後川の水位を下げる方法はないか。国土交通省に要望してほしい。

(回答)

- ・ ダム対応など要望していく。

(質問)

- ・ 石井町一丁目の山側、太陽光発電の設置により排水量が増えている。

(回答)

- ・ 開発行為の基準を満たせば止める権限はない。

(質問)

- ・ 串川など洪水時には石の音がすることがある。流木などによる土石流も心配である。

(回答)

- ・立木を防ぐスリットダムなどの設置要望をしていくが、今後の雨はインフラ整備のみでは防げない。まずは、自分の命は自分で守る行動をお願いします。

(質問)

- ・今年の西日本豪雨、昨年の九州北部豪雨から、どのような土質にどのような植林が適正か、国や県に働きかけが必要ではないか。

(回答)

- ・今後研究が必要と思う。

(質問)

- ・耕作放棄地が増え、水の保全ができていない。

(回答)

- ・耕作放棄地は個人の財産であり、所有権が絡む。また、高齢化などで農地の保全が十分できていない。

(質問)

- ・土砂災害警戒区域は土質調査をしているのか、どれくらい危険なのかわからない。

(回答)

- ・県内で2万箇所あることから難しい。専門家の意見などを聞いて状況を見る。

(質問)

- ・福祉避難所の情報を提供してほしい。

(回答)

- ・情報提供する。

(その他)

- ・石井町三丁目迫地区の急傾斜工事がほぼ完了して安心している。

その他の事項についての意見等

(質問)

- ・陣屋の復元について、観光資源にもなるし再生事業を行ってほしい。

(回答)

- ・当時の平面図しかなく文化財としては難しい。また、20億以上かかることから現時点で積極的な取組は難しい。